

防災塾

No.11

ブレーカーを「感震ブレーカー」にするアダプターを試してみました。

阪神・淡路大震災（1995年）では、住民の避難後に停電が復旧し、スイッチを切り忘れた電気器具などから出火し、人命や家を失う大規模な「通電火災」が発生しました。

又、東日本大震災（2011年）では、電気器具や配電盤から出火する「電気火災」や地震の揺れで電気ストーブに燃えやすい物が落ちたり、落下物で電気器具のスイッチが入って出火したとみられています。（防災士教本より抜粋）

このことから、人命や財産を失わない為にも、停電の有無に関係なく、揺れを感知して電気を遮断する「感震ブレーカー」を設置する重要性が指摘されています。

については、既設のサーキットブレーカーを感震ブレーカーにする「アダプター」①断ボール型・②アダプター型の2種を購入し、ブレーカーに取付けて試行してみました。

購入品 ① スイッチ断ボール III model1J : 株式会社エヌ・アイ・ピー製

② 感震ブレーカーアダプター ヤモリ : 株式会社リンテック 21製

※① ②共、消防防災の推奨表示付き

【結果】 ① ②共、ブレーカーのスイッチが落ちて電気を遮断できました。

【使用上の問題】

- ①について
 - ・重り（図参照）が落下する途中にぶつかる物が無いこと。重りが途中でぶつかるとスイッチに十分な重さが掛からず、スイッチが落ちない場合がある。
- ②について
 - ・ブレーカーの形状によってアダプター本体の取付け位置（ブレーカーの上や下）に合わせてバンド（図参照）の取付け方向を変える必要がある。



①断ボール型 価格：3,000円位



②アダプター型 価格：4,000円位



②の取付け例

①②の取付けの詳細については、メーカー説明書の取付け例をパネルにして管理センター A室横の廊下に掲示してありますので、購入する前に参考に見てください。（防災塾でも説明します）

【注意事項】

これらを取付けたブレーカーは、設定震度で作動して電気を即断します。電気を使っている医療器具が在る場合、補助電源への切り替えが必要です。停電時、補助電源に切替わる器具か、3分間電気を維持する感震ブレーカーに交換し、この間に電気が途切れないように対処してください。

地震に無関心では、自分や家族を守れません。ぜひ、今後開催する「防災塾」へ足を運んでください。

「防災塾」の開催日は階段下掲示板へ貼り出します。

「防災塾」塾長・防災士 竹内 一三 ☎046-254-7137 後援：相武台グリーンパーク災害対策合同会議